

第6回スーパー9オールスターズフェスティバル女子

日時 2007年12月13日～16日

会場 新青森県総合運動公園・青い森アリーナ

Aトーナメント準決勝

<u>所沢若松クラブ(埼玉)</u>	}	20 - 22	}	<u>新潟(新潟)</u>
		21 - 16		
		17 - 21		
	レフリー			<u>和田幸蔵(宮城)</u>
	アンパイア			<u>熊谷充浩(静岡)</u>

序盤新潟6番木村の高さのあるレフトからのスパイクが決まり、新潟がリードする。所沢は2番湯之前的トス回しが冴え、中盤からは所沢がリードを奪う。所沢がリードのまま終盤に入るが、新潟の粘りあるレシーブで20 - 20に追いつき、新潟が22 - 20で1セット目を取った。

2セット目は所沢13番反町のサーブで5 - 1とリードする。その勢いそのまま、所沢10番の川田のパワーのあるスパイクで得点を重ね、一気に17 - 10まで追い込む。しかし、新潟は11番沼田の速攻、6番木村のスパイクで食い下がるが、21 - 16で所沢若松クラブが2セット目を取った。

3セット目、序盤から新潟が一本一本のラリーをものにし、5 - 1とリードする。所沢も5番吉橋のナイスレシーブで踏ん張るが、新潟が11 - 5とリードしたままコートチェンジする。しかし、所沢が変化のあるサーブで新潟のレシーブを崩し、12 - 12に追いつく。両チームともに最後まで粘りあるプレーを見せたが、新潟6番木村のスパイクが要所で決まり、新潟が競り勝った。

戦評者 津島由香

第6回スーパー9オールスターズフェスティバル女子

日時 2007年12月13日～16日

会場 新青森県総合運動公園・青い森アリーナ

Aトーナメント準決勝

<u>佐伯長陽会 I・O (大分)</u>	}	21 - 5	}	<u>かわばた不動産 (沖縄)</u>
		21 - 10		
	レフリー			<u>黒 滝 昭 弘 (青森)</u>
	アンパイア			<u>石 岡 仁 (東京)</u>

九州対決となったAトーナメント準決勝は、第1セット長陽会が12番藤本のレフトスパイク、7番吉田のサービスエース、6番吉本のBクイックとサービスエースで着々と加点し、かわばた不動産につけ入るすきを与えず21 - 5と圧倒した。

第2セット、かわばた不動産は6番又吉のライトスパイクで序盤4 - 4としたが、長陽会3番松本のAクイック、11番藤原のライトスパイクで10 - 5とリードを奪う。その後、12番のレフトスパイクや6番吉本の4本のサービスエースなどでさらに差を広げ、最後はかわばた不動産のライトスパイクがアウトとなり、21 - 10のスコアで長陽会がストレート勝ちを収めた。

平成20年の大分国体の9人制女子強化指定チームが順当に勝利し、2年ぶり2回目の優勝を目指すことになった。

戦評者 小林 秀 樹

第6回スーパー9オールスターズフェスティバル女子

日時 2007年12月13日～16日

会場 新青森県総合運動公園・青い森アリーナ

Aトーナメント決勝

<u>佐伯長陽会 I・O (大分)</u>	}	21 - 14	<u>新</u>	<u>潟(新潟)</u>
		21 - 10		
	レフリー		<u>米 澤 領 太(大阪)</u>	
	アンパイア		<u>岡 村 尚 文(青森)</u>	

決勝は、来年度国体開催県である大分代表と、2年後の国体開催地、新潟県選抜チームとの対戦となった。

第1セット序盤は一進一退の展開であったが、長陽会は12番藤本の力強いスパイクで流れをつかむと、そのまま得点を重ねていった。新潟も11番沼田の速攻などで、取り戻そうとするが、最後まで流れを変えることはできなかった。

第2セットは一歩的な展開となった。長陽会は藤本のレフト攻撃に加え、6番吉本の速攻を効果的に使い、相手ブロックを翻弄した。一方新潟はエース6番木村にボールを集めて応戦するが、逆に長陽会のブロックに切り返される場面が多くなってしまった。

佐伯長陽会 I・O は2年ぶり、2回目の優勝。来年度、地元国体での活躍が大いに期待される。

戦評者 山 道 律 人

第6回スーパー9オールスターズフェスティバル女子

日時 2007年12月13日～16日

会場 新青森県総合運動公園・青い森アリーナ

Bトーナメント決勝

<u>NEC府中(東京)</u>	}	21 - 14	}	<u>静岡西部クラブ(静岡)</u>
		21 - 7		
	レフリー			<u>坪 誠 (千葉)</u>
	アンパイア			<u>上原明子(兵庫)</u>

2007第6回スーパー9オールスターズフェスティバル女子 Bトーナメント決勝戦
は、NEC府中(東京)と静岡西部クラブ(静岡)の対戦となった。両チームとも初日は苦しい戦いだったものの、Bトーナメント戦に入り、危なげない戦いぶりを見せ、決勝戦まで勝ち上がってきた。

1セット目、動きに堅さがが見られるNECに対し、レシーブやブロックなどで粘り強くボールをつなぎ得点につなげた静岡は11 - 8とリードを保ち中盤へ入る。しかしNECは8番笠倉の強烈なサーブが起点となり、6連続得点をあげ、一気に逆転に成功。ここから静岡はサーブレシーブが乱れだし、序盤の勢いを失ってしまう。結局終盤にも4連続得点をあげたNECが21 - 14で1セット目を取る。

2セット目に入っても、静岡はサーブレシーブを持ち直すことはできず、スタートから8連続失点。その後もNECの勢いは衰えず、21 - 7の大差で2セット目も取り、NEC府中が2 - 0のストレートで静岡西部クラブを下し、Bトーナメントの優勝を飾った。

戦評者 春藤裕和